

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会  
令和2年度第7回 理事会議事録

令和2年9月6日(日) 15:00~17:00

神戸ポートピアホテル「南館 B1F サファイア」

【出席した理事】伊東 学、大鳥精司、小田剛紀、川原範夫(web)、西良浩一、  
高相晶士、田中信弘、筑田博隆、千葉一裕(web)、西田康太郎、  
根尾昌志、長谷川和宏(web)、波呂浩孝、松山幸弘、山田 宏

【出席した監事】小澤浩司、小西宏昭(web)

【出席したオブザーバー】大和 雄(第49回日本脊椎脊髄病学会学術集会事務局長)  
(web)の表記はweb会議システムにて会議出席

【議事の経過の要領及びその結果】

松山幸弘理事長が議長となり、開会を宣して議事に入った。

1. 理事長挨拶・第49回学術集会準備状況報告

松山理事長が、翌日からの第49回学術集会については座長等を役員各位に依頼することがある旨を説明し、一同承知した。

また、大和事務局長が、キャンセルを除く実際の登録者数は約1,600名となっていること、一般演題の現地発表、web発表、紙面発表、取り下げの各人数、指定演者、共催セミナーの数なども報告した。企業展示については、8社からキャンセルがあったが、スポンサーセミナーはキャンセルなしであると説明した。

現地とWebのハイブリッドで開催するために追加になる費用は、京葉コンピュータに約700万円、当日のWeb運営費で約1000万円の合計1700万円、および現時点で見積額がはっきりしていない部分が追加予定であるとの説明がなされた。

審議・決議事項

1. 前回議事録の確認

前回議事録について一同承知し、修正等ある場合は渡辺理事へ一報することになった。

2. メンバーシップ・コンプライアンス委員会より：会員審査(7-8月分)

7-8月の入退会について全員を承認した。

### 3. 定款等検討委員会より評議員選出規程と応募要領の改定等について

当学会の「評議員選出規程」および「応募要領」の修正版が提出された。規定は、第5回理事会で修正指示のあった内容通りの修正であるとして承認された。応募要領については、JSSRの受賞歴の例に Asia Travelling Fellowship を入れることになった。

また、一同検討の結果、「理事会推薦女性評議員」として、応募の基準に満たない女性でも理事会推薦があれば評議員になれる枠を2名まで設けることを決議した。

さらに、学会活動の活発化で同じ先生に委員の委嘱が集中してしまうこと、ここ数年優秀な候補者が集まっていることなどから評議員枠を現行の5%から7%程度まで枠を広げること決議した。

以上の修正について、定款等検討委員会にて文言を修正し、再度理事会に上申することになった。

上記に関連し、現在推薦評議員制度を利用しているいくつかの県については、できるだけ通常の評議員として新規申請してもらうことに一同賛同した。

### 4. JSR 編集委員会より転載許諾に関する JSR ホームページ改修費について

『JSR』掲載論文の図表転載に関する統一したフォームも申請方法もなかったため、JSRのホームページ上に申請ボタンを設けるための杏林舎の見積が提示され、一同承認した。

### 5. 日本医学会連合「領域横断的なフレイル・ロコモ対策の推進に向けたワーキンググループ」への参画について

日本医学会連合から依頼のあった「領域横断的なフレイル・ロコモ対策の推進に向けたワーキンググループ」への参画について、日整会のみならず当学会としても積極的にかわっていくことでワーキンググループへの参画を決議した。詳細情報が届いたら、そのメンバーを検討することになった。

### 6. 社保委員会より骨移植を伴わない経皮的椎弓根スクリュー (PPS; percutaneous pedicle screw) を用いた脊椎固定術の技術料新規申請の是非

骨移植を伴わない経皮的椎弓根スクリューを用いた脊椎固定の技術料が、固定術として申請されていることについて、日整会の社保担当である平泉先生や当学会の社保委員長の遠藤先生から問題が提起されたとの説明がなされ、以下の意見が出された。

- 単に PPS 手技の点数を下げるのではなく、そのメリットを考慮して、点数を上げる工夫も検討すべきである。

- 県によって対応がまちまちで、所属の都道府県マターになってしまっていることが問題であり、「骨移植を伴わないPPS」として別にするのがよいのではないか。日整会の社保委員会とも足並みをそろえて検討し、点数改訂の場合どの程度になるかを社保委員会にて計算し、理事会へも再度上申したいとすることが承認された。

## 6.その他

### プロジェクト委員会より：若尾委員が担当するプロジェクトの補助員への謝金支出について

現在進行中の若尾委員が担当しているプロジェクトで、補助員2名の日当(月額にして10万円程度)の基準となる資料が提示された。源泉徴収についてはパート・アルバイトのダブルワークのため問題ないことを石原顧問税理士にも確認済みであるため、該当のプロジェクトのための就労時間のエビデンスをつけて請求をしてもらうことが承認された。

## 3. 審議・報告事項

### 1. COI委員会報告

7月いっぱいまで収集した役員・委員のCOI書類について、現在その結果をまとめていることが報告された。新技術等のWGにおいても過半数を超えるCOIのある委員はおらず、大きな問題はなかったと説明された。

### 2. 広報委員会報告

ホームページの改修を進めており、「学会の歴史」に過去の役員集合写真をそれぞれ掲示、「ATF・VSP」ページには紀行記のなかに掲載していたそれぞれの写真を外にも掲載するような形式でビジュアル化したことが報告された。「役員挨拶」については、現在テストアップ中である。

松山理事長が、「生きたホームページ」にしてほしいので、最新情報の掲載や動画のアップなども今後検討してほしいと依頼し、田中理事が了解した。

### 3. 指導医制度委員会報告

今年の指導医継続申請については一律1年延期となったが、その際に学会の参加が申請できる期間を6年間とすることにしたこと、新規については例年のような対面審査会ができない恐れがあり、郵送およびwebを用いた会議の開催を予定していることが報告された。

#### 4. 専門医制度委員会報告

専門医の問題集を新版（第2版）にすべく、掲載する問題を検討中であること、専門医試験については、9月5日に感染症対策を実施したうえで第8回試験を品川で行い、約80名が受験し全員合格ラインに達していたことが報告された。

さらに、キャンセルは、9月5日で10名程度、9月9日で20名程度であることが報告された。

#### 5. 社会保険システム等委員会報告

審議決議事項にて発言済。

#### 6. 英文誌編集委員会報告

7月下旬に配信したSSRRのニュースレター（NL）について、約1か月後の追跡調査結果が出たとして資料が提示された。

調査からわかったこととしては、

- 約3600名のメールアドレスはほとんどが有効であり、配信成功率は95%以上であった
  - 配信20分以内に500名程度が、1か月で約2000名（6割強）が届いたメール（NL）を開封した
  - 配信から一週間たつと、再度そのメールが開かれることはない
  - 論文がクリック（内容を表示）されたのは、掲載順ではなかった
  - 日本語で要約をしたエクセルファイル（一言要約）もよく開かれていた
- 等であったと報告された。

#### 7. 学術集会プログラム等検討委員会報告

7月20日に委員会の会議について以下のように報告された。

- 第50回学術集会において外国人の追加招聘はしない。
- 第51回の会場はパシフィコノースにする。
- 第52回は、見積金額および熱意を検討し、コンベンション会社はJCSを採用したいとの種市会長の希望を反映してJCSに決定した。会場は、札幌コンベンションセンターで、会場費が1000万円以下と格安である。
- 第53回は、横浜か幕張で会場を検討中である。

#### 8. 国際委員会報告

以下のことが報告された。

- OPLL 3rd editionのアジアの先生への送付先については、川口委員が中心になり最終調整中である。
- 来年の神戸のAPSS-APPOSについては指定演者の調整中である。
- NASSから International Symposium: Cervical Spine Surgery symposiumのオンラインシンポジウム参加の依頼があり、伊東理事がレコーディングを終えた。
- Spine Across the Sea 2021については、現時点では開催方向で調整中である。
- Spine20については経過観察中である。

大鳥理事が、ミラノのISSLSについては、ハイブリッドかweb開催のみかを検討中であるが、11月15日までに抄録を集めたのち幹部会を開催することが決まっていると報告した。

## 9. その他の委員会報告

### 安全医療推進委員会

7月29日の委員会の内容が説明された。冠動脈疾患患者における抗血栓療法のガイドラインがアップデートされたこと等について議論した。

また、次回委員会にて富山大学の川口先生がレベルエラー研究のプレゼンテーションを予定していることが報告された。

### 教育研修委員会

第50回学術集会で実施予定の「脊椎脊髄病研修コース」の内容について紹介された。現在予定している研修会場は、会場定員の半分の収容人数に制限する「50%ディスタンス」を意識していないため、50%ディスタンスを必要とされた場合、何らかの対策が必要となるとの説明がなされた。

松山理事長が、このコースを受講した後簡単なテストが行われ、モニタリングの資格が付与されるが、その資格がないとモニタリングが実施できなくなるとか、保険点数が算定できなくなるとかいったことではないと補足した。

### 倫理委員会

学術集会の発表でも今後倫理審査が必要になると予想され、その準備として外科系学会の資料を集めて委員会内で共有し、日整会の倫理委員会とも足並みをそろえて対応していくと報告された。

## DB委員会

金村委員長を中心に日整会のJOANRの上に構築するデータベースについて検討しているが、JOANRのデータベース管理を日立が行っていくことになり、リーズンホワイ社からのデータ移行に時間がかかりそうなので慎重に進めると報告された。入口はひとつにしてなるべく入力側の手間を削減できるようにする予定であることも説明された。松山理事長が当学会の多施設共同のデータベース構築時は、数社にプレゼンをしてもらって業者を決める予定であると補足した。

## その他

波呂理事が、腰椎椎間板ガイドラインの発刊にあたり、JSSR や腰痛学会にパブコメの依頼をする予定であると発言した。

次回理事会は、10月8日 20時から web 会議システムにて行うことになった。

以上

令和2年9月6日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 松山幸弘

監事 小澤浩司

監事 小西宏昭